

わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。



鈴木 陽大 さん

今回は、10月が「食品ロス月間」であること
ちなみ、食品ロス削減のため、活動を行っている
鈴木陽大さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：今日はよろしくお願
いします。早速ですが、鈴木さんの活動につ
いて教えてください。

鈴木：昨年、市のサポートの下、食品ロスに関
するイベントを開催しました。食品ロス
とは、まだ食べられるのに捨てられてし
まう食品のことで、世界の食品生産量の
1/3もの量が捨てられてるんです。
その状況を知ってもらい、食品ロスにつ
いて考えてもらいたいという思いから、
イベントを企画して市に持ち込んだん
です。

情：行動力がすごいですね。何がきっかけで食
品ロス問題を意識するようになったん
ですか？

鈴木：2年前の春に海外研修に行っただ
研修の最終日、もっと色々学びたいと
思って急遽10日延長したんです。だから
お金が全然なくて。持ってた数千円も
宿代と交通費にほとんど消えてし
まって、水しか飲めない状態が数日続い
たんですよ。

情：危機的状況じゃないですか。それで、
どうなったんですか？

鈴木：そんな中、日本の文化を伝えたくて路
上で書道パフォーマンスをしてたら、
見知らぬ外国人が「お面白いな。一緒
にご飯食べに行こう。」って声をかけて
くれたんです。それで、飯を、ちうそっし
てもらったんですけど、もうめちゃうく
ちゃ美味しく。食のありがたみを痛
感しました。忘れていた大事なものを
思い出した感じなんです。なのに、日本に
帰ってきたら、大量に食品が捨てられ
てたんです。それまでは何も思わない
どころか、意識したことすらなかった。
このままじゃダメだなって強く思った
んです。

情：そんなにも捨てられてるんですか！
一杯分もの食品が捨てられてることに
なるんですよ。

鈴木：そんなにも捨てる意識はなかったです。
でも、確かに思い返してみると、私も野
菜を腐らせちゃって捨てちゃったこと
結構あります。安いからって買いき
ちゃって…。今日から心を改めて、吟味
してから買うようにします。では、最後
に市民のみなさんにメッセージをお願い
します。

鈴木：どんな食べ物も捨ててしまえば「ごみ」
になってしまいます。そして「ごみ」を
処理するための費用として税金が使わ
れています。処理のために燃料が使わ
れることで温暖化の促進にもつながり
ます。「食品ロス」と言うと、「なんだか
難しそう」「意識高いね」「なんて言わ
れることが多いですが、全然そんなこと
ないです。だってみなさん、毎日食事は
するじゃないですか。もっそれは「食品
ロス問題」に関わっているってことで
す。まちづくり、なんなら世界づくりに

情：なるほど。確かに、そういう状況になら
ないと、ありがたみってなかなか実感
できないですよ。食べたいときに、食
べられるのが当たり前って思っちゃっ
てます。

鈴木：多分みんなそうなんです。僕もそうだっ
たので。日本では、年間600万t、
650万tの食品ロスが出てるんです。

家庭に眠っている食品大募集

家庭で不要な食品があればぜひ寄附
してください。いただいた食品は、「認定
NPO法人セカンドハーベスト名古屋」
を通して生活に困っている人へ無償で配
布します。

受取期間・場所

時 10月27日(火)～11月1日(日)
9:00～17:00

場 福祉の家1階事務室
各共生ステーション

問 市社会福祉協議会 ☎62-4700

寄附いただきたい食品

お米、缶詰、インスタント
食品、各種調味料、乾物、
飲料、お菓子など

※次の食品は受け取り不可
賞味期限が2020年12月5日
以前のもの、開封してあるもの
(お米除く)、アルコール類、ビン
詰め、要冷蔵、要冷凍、生鮮食品

携わってるんです。残さずに食べる。使
い切れる量だけ買う。こんな些細な一
ひとりの行動で、長久手市が、世界がい
い方向に向かうんじゃないでしょうか。